



建廃協 NEWS NO29

平成26年度講演と交流の集い
 開催日時：9月12日（金）
 開催場所：明治記念館



日中でも吹く風に秋を感じ始めた今日この頃ですが、久々の爽やかな秋晴れの中、350名余りの参加者を明治記念館に迎え、「講演と交流の集い」が開催されました。

昭和62年から始まったこの集いは建廃協の中でも長い歴史をもち、一大公式行事となっております。昨年までの「懇親」から今年は「交流」と名前が変わりましたが、これはより広い分野の方々に一人でも多く参加して戴き、交流を深めて貰おうという主旨により今年から変更となりました。

はじめに建設廃棄物協同組合 島田理事長の開会挨拶、続いて公益社団法人全国産業廃棄物連合会 石井会長より来賓ご挨拶を頂戴し、第1部「講演の部」が始まりました。

講演は、今年のテーマである「建設汚泥の現状と未来」を掘り下げる形で進行していきました。今回このテーマを取り上げたのは、東京オリンピックやリニア中央新幹線建設に向け、今後増えると予想される「建設汚泥」に対して皆さんの関心が非常に高い事から、今回の講演の主題となりました。



島田理事長

国土交通省総合政策局公共事業企画調整課 環境・リサイクル企画室 福島室長より今年9月に策定された、最新の「建設リサイクル推進計画2014」についての講話を頂いた後、日報ビジネス株式会社 富見田取締役より「建設汚泥の現状について」の説明がありました。現状、建設汚泥では、海洋投入処分が認められていますが、平成28年の許認可更新時に大きな転機を迎える可能性がある事や、増加する「建設汚泥」に対して、一定の環境基準や品質をクリアしたものについては有償譲渡の有無に関わらずリサイクルを認める提案など、貴重なご意見を頂きました。



福島室長



石井会長

引き続きパネルディスカッションにおいても熱い討論が展開されました。5名の専門家をパネリストに迎え建設汚泥の質の向上や、排出量の抑制方法、建設汚泥に対する現場意識の向上などが議論に挙がり、排出元（現場）・行政・処理業者が三味一体となり対応することが重要との認識を改めて確認致しました。

パネリストの皆様



続いて第2部「交流の部」は、富士の間に会場を移して行われました。会場には彩り豊かな料理が並べられ、華やかな雰囲気に参加された方々の緊張感を解きほぐしていきます。

そして和やかな空気の中、島田理事長の挨拶により交流会が始まりました。挨拶の中でも島田理事長は、「本日の講演テーマ、建設汚泥の処理については数十年に渡り苦悩しており、建廃協として道筋をつける為に佐藤弁護士に色々と相談しています。」と、いかに建設汚泥の処理が困難かを示す言葉が節々に滲みでておりました。御多忙の中御出席頂いている来賓の方々より御祝辞を頂戴した後、建設六団体副産物対策協議会 玉井事務局長の乾杯で、会場のあちらこちらに談笑の和が広がり、「講演と交流の集い」も大成功の内に終了致しました。



水谷課長補佐



福島室長



米谷部会長



玉井事務局長

レポート 株式会社 共同土木 河口伸治



お知らせ



広島土砂災害の義援金
¥97,632 が集まり、日本
赤十字社に寄付致しました。

青年部のチャリボンでは、
122冊のご協力がありました。



ご協力ありがとうございました。

